

第6回食と漁の地域活性化シンポ

四万十川アユの再生と流域の地域未来づくり

共催：四万十町/(一財)自治総合センター/(一財)東京水産振興会/あゆまつり実行委員会

後援：高知県/四万十市/檮原町/津野町/中土佐町/四万十川漁協連合会(四万十川中央漁協/四万十川下流漁協/四万十川東部漁協/四万十川西部漁協)/四万十川上流淡水漁協/(公財)四万十川財団/(一社)四万十町観光協会/国土交通省四国地方整備局中村河川国道事務所/全国内水面漁連/月刊つり人社/高知新聞社/高知放送/KSS 高知さんさんテレビ/KUTV テレビ高知/NHK 高知放送局

と き：2018年11月25日(日) 13:00-19:00

(第1部：シンポジウム) 13:00-17:00 参加自由・無料

(第2部：四万十川アユ料理交流会) 17:30-19:00 参加費 3000円

ところ：第1部シンポ 四万十町農業農村環境改善センター(JR窪川駅より3分)
高知県高岡郡四万十町榊山町3-7 電話 0880-22-3124
第2部交流会 四万十農協会館 3階大ホール

プログラム

《第1部》シンポジウム

主催者挨拶 中尾博憲(四万十町長) 13:00-13:30
西本真一郎(東京水産振興会振興部長)

来賓挨拶

趣旨説明 二平章(コーディネーター 茨城大学人文社会科学部客員研究員)

●講演

1. 四万十川の魅力と地域未来づくり 13:30-14:00
黒笹慈幾(高知大学地域協働学部特任教授)
2. 四万十川アユの再生と3つのプラン 14:00-14:30
高橋勇夫(たかはし河川生物調査事務所)

●トークセッション

1. 四万十川の流域自然と歴史文化 14:45-15:00
池田十三生(四万十川上流淡水漁協組合長)
2. 四万十川アユのブランド化 15:00-15:15
林 大介(道の駅よって西土佐駅長)
3. 築地市場から見た四万十川アユの魅力 15:15-15:30
河野智和(大都魚類鮮魚特種部課長代理)
4. 子ども達へつなごう四万十川文化 15:30-15:45
神田 修(四万十川財団事務局長)

●パネル討論 四万十川アユと流域の未来に向けて

15:45-17:00

司会：二平 章（コーディネーター）

パネラー

黒笹慈幾（高知大学地域協働学部特任教授）

高橋勇夫（たかはし河川生物調査事務所）

池田十三生（四万十川上流淡水漁協組合長）

林 大介（道の駅よって西土佐駅長）

河野智和（大都魚類鮮魚特種部課長代理）

神田 修（四万十川財団事務局長）

《第2部》 四万十川アユの料理で交流会

17:15-19:00

料理内容：鮎寿し・鮎の甘露煮・焼き鮎を使ったキュウリとリュウキュウの酢もみ

・鮎の素揚げ・鮎の塩焼き・鮎の開き・鮎飯・地酒

料理協力：四万十町里山グループ・ちょこっと地域応援団

◎開催趣旨：国の「重要文化的景観」「名水百選」「水源の森百選」に選定される四万十川。流域は豊かな自然にはぐくまれ、四季折々に美しい景色を見せます。四万十川は全長196km、四国で最長の川であり「山に向かう」その不思議な流れは南海トラフから加わる力によって隆起した山並みによって造られたとされます。四万十川は古くから川魚漁が盛んで、天然アユ、ウナギ、手長エビ、青のりの産地としても知られてきました。なかでも四万十川アユは、「数」が釣れることで有名でしたが、近年、資源の減少傾向が続いています。本シンポでは、減少を続けるアユ資源の再生と持続的利用、四万十川アユのブランド化・価値創造のための集荷・流通システム構築の可能性をさぐります。また、他の河川と同様に流域住民と川との関係の希薄化が進む中、四万十川流域の自然資源の魅力を見直し、流域の地域経済活性化のための行動プログラム、流域文化の継承のための教育プログラムをさぐります。

■ 第6回食と漁の地域活性化シンポ 参加申込先 ■

申し込み先：四万十町役場企画課 （担当：中井）

FAX：0880-22-3123

電話：0880-22-3124

E-mail：105010@town.shimanto.lg.jp

■参加申込書■

所属、住所、TEL、FAX、メールアドレス、参加者氏名、参加の有無を明記の上、上記申込先にファックスまたはメールでお送りください。

所属			
住所	〒		
TEL		FAX	
メール			
参加者氏名	参加について○を付して下さい→	シンポジウム	交流会(先着)
		有 ・ 無	有 ・ 無
		有 ・ 無	有 ・ 無
		有 ・ 無	有 ・ 無
		有 ・ 無	有 ・ 無

○交通のご案内

JR 四国：高知駅～窪川駅（特急で1時間10分）

窪川駅から徒歩3分 四万十町役場そば